

ある日突然、襲ってくるもの

— 脳梗塞からの生還 —

第3回：いよいよ念願のリハビリ病院への転院

※三角波：時化た海で方向の違う二つ以上の波が重なってできる三角形の波で、船の舵が取れなくなる危険な状態を言う。

私が原田豊さんを存じ上げるきっかけとなったのは、1996年、英国ニュースダイジェスト誌の人物紹介欄に原田氏が登場されたときだった。原田氏は当時、日系鉄鋼メーカー欧州社長の任期を満了し、ロンドンでビジネス・コンサルタントとして、ビジネスを立ち上げたと述べておられ、一流会社から新たな飛躍をされた原田氏の姿が深く印象に残っている。今回は、2016年に脳梗塞を発症された原田氏がいかに病を克服してきたか、原田氏の人生の三角波をお聞きする、全5回シリーズ。

(センターピープル代表取締役 飯塚忠治)



原田豊さんプロフィール

山口県出身。1965年東京外語大卒業。趣味はミュージカル鑑賞と、愛犬と一緒に近所の公園を散歩すること。週末には奥様と近所にお住まいの一人娘のお嬢さんと一緒においしいワインを楽しむという、家庭を大切にされるジェントルマンである。

2016年12月29日の早朝、原田氏は突然、脳梗塞に襲われ救急車で病院へ。それからほぼ1年半が経過した。7カ月に及ぶ入院生活の後、現在は自宅でご家族の温かいサポートはもとより、医療関係者の協力や多くのご友人の励ましの中で、不自由になった身体の回復に向けリハビリに励んでおられる。2018年3月、春の陽光の中で少しずつ回復を実感し、明るい兆しを感じられている原田氏。そんな同氏に、奥様の美弥子さん、お嬢さんの智美さんと共にこの1年半余りを振り返り、脳梗塞、入院、そしてその後について、体験をお話しいただく。脳梗塞はそれなりの年齢になると誰にも発症する可能性がある疾患。原田氏は、ご自身の体験が読者の皆様のお役に立てばと、この対談を快諾してくださいました。



6月16日、ロンドンのレストラン「タカハシ」で。左から美弥子さん(奥様)、智美さん(お嬢さん)、原田さん、渡辺さん(歌人)、飯塚(筆者)

飯塚 意欲的に取り組まれる気持ちが伝わってきます!

原田さん しかしここは英国、セラピストが時間通りに来ないこともたびたびあり、よくワイフにセラピストを呼びに行ってもらいました。「ユタカはやる気に満ちている」と色々ところで言われましたが、とにかくもっと良くなりたいという気持ちが強かったです。

飯塚 最終的にご本人が良くなりたい、回復しようという「気」が、リハビリの成果に影響を及ぼすのだと思いますから、主体的な取り組みを強く希望された原田さんの姿勢に、病院のスタッフたちも感嘆したのでしょうか。ところで、病院での楽しみは食事時間ではないかと、私の個人的な経験からも思い出されるのですが。

原田さん 入院中は嚥下障害と診断されたため、食に関してはかなり忍耐を強いられました。私は元々おいしいものを食べるのが大好きでしたので……。それでも、どうしてもおいしい寿司が食べたいという願いがかなって、行きつけの寿司屋のシェフが握って届けてくれたのには感激しました! 退院時には、食事制限の指導を受けましたが、ワイフが私のおいしいものを食べたいという気持ちを汲み取り、色々チャレンジしてくれたおかげで、今ではほぼ普通の食事をしています。病院での食事は基本的に食堂で食べるので、ほかの病室の方たちとも自然と顔なじみになります。患者も家族もお互い声をかけて励ましあったり、快復を喜びあったり、和気藹々とした雰囲気でした。

飯塚 おいしいものを食べることは元気になることにダイレクトにつながりますから、寿司なども食べられて本当に良かったですね。何か英国の病院に発見はありましたか。

原田さん 病院はとても明るく開放的で、病室からすぐ庭へ出られます。季節も良かったので、毎日の様に日光浴をしていました。沢山の方にお見舞いにいらして頂き、それも本当に励みになりました。入院中に1度、ベッドから落ちたことがあり、びっくりしました。同室の患者さんが大慌てでナースを呼んでくれたのですが、それを話すと「自分には3回落ちたことがある」と言った強者がいました。

飯塚 驚きですね!

原田さん リハビリ病院では、希望すれば週末に自宅へ帰ることができる人もおります。私の場合は、当時まだナースの介助が必要だったのでないかもしれませんが、理学療法士の許可をもらって、病院の近くにある大学キャンパスやパブに散歩に行ったりしました。また、退院後に行動範囲を広げていきたいと作業療法士に伝えたところ、バスを使って近くの街まで行くというセッションを用意してくれました。柔軟な対応だと思います。

飯塚 今日もありがとうございました。次回は退院後の生活を中心にお聞きしたいと思います。

ご友人からのお見舞いの短歌

復活の日の近きこと実感す
よく飲み食ぶる君を見るとき
(歌人 渡辺幸一さん)

※ 原田さんは回復途中で言葉が話すことがまだ自由ではありませんので、対談中は美弥子さん、智美さんにお手伝いいただいています。

本コラムの過去記事は、下記アドレスでご参照いただけます
www.centrepople.com/japanese/article



飯塚 前回はリハビリのための転院が、ノロ・ウィルス院内感染で、1カ月も延び延びになったとお聞きしたところでした。新たな転院先ではどのような日課が組まれていましたか。

原田さん リハビリ病院では、作業療法士(OT)、理学療法士(PT)、言語療法士(SLT)がチームを組み、週の初めに1週間の時間割が渡されます。医師やカウンセラーの予定も書き込まれます。家族に頼んで、いつも翌日のスケジュールを書き出してもらっていました。リハビリは1日大体3セッション程でしたが、もっともっとセッションを増やしてほしいくらいでした。